



No. 49

令和元年11月29日

発行 多治見市教育研究所

URL: <http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
 本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

巻頭言

「積み重なる時間」

多治見市教育委員会 教育委員 大嶽 和好

新しい元号で初めての年の瀬を迎えようとしています。勤め先のナンキンハゼやイチョウは山の緑を背に赤や黄色とまだ鮮やかに色を残していますが、盛りの美しさからはそろそろ別の趣を見せています。夏から秋、晩秋そして初冬、これまでの季節感に季節の現実がようやく追い付いてきたような感じがします。

「早いもので」という言葉が会話の始めに使われるようになる頃です。やはり「これから」や「これまで」よりも「今」が中心にあるからこそその感覚でしょうか。「これから」がすぐに「今」になり、「今」は次々と過去になっていきます。その速度に追い越されそうになりながらも、自分の時間の先に立っていて、ふと振り返ると夏や秋が後ろに見えるというこの季節に、私には思い出す言葉があります。その言葉は「時は流れない。それは積み重なる。」という、もう20年以上前の古いCMのコピーです。時の流れは人の自由にはならないものであり、だからこそ人にとっては興味や関心を強く惹かれるものです。例えば「バック・トゥ・ザ・フューチャー」「時をかける少女」「君の名は。」などの映画、そして小説「タイムマシン」などです。国や時代が違って、過去や未来を垣間見る時間旅行は人が願う夢や希望の順位付けではおそらく上位に入るでしょう。主人公たちと時間と時代を共にする朝ドラや大河ドラマにも通じるころはあると思います。「この世は我がものであり満月のように足りないものは何もない」と1001年前の11月に歌を詠んだ人がいますが、その人にも時の流れそのものは自由にならなかったことでしょうか。しかしながら絵や記号、そして文字を用いて記録することで時の流れを定着させて残すことや伝えることができるようになっていました。それらは読まれ語り継がれて今、古典と呼ばれています。また人には記憶する力があり、記憶の中で積み重なっていく時間もあります。時は流れて消え去って行かないで、積み重なっていく、積み重なったその上に立ってそこからどんな景色が

見えるのでしょうか。古人先人の頃から今に至るまでのさまざまな試み、実践の結果や成果の積み重ね、失敗も成功も合わせてそれらを今とこれからに生かすこと、また時にはそこから学んだ知恵でこれまでにないものを生み出すことが今を生活している者が果たすことのできる役割の一つだと思います。

私は生まれた時にはまだテレビの画面に親しむことは日常的ではなく、しかも画面には色はなく白黒だった世代です。そのころから、そして現代においても学校、警察、病院は映画や小説、テレビのドラマ等で取り上げられることが多い部署です。それだけ多くの人たちにとっては重要な役割を期待できて、それを果たしてくれるはずの部署であり、興味や関心が集まる部署ということです。そこで働き、活躍することへのあこがれもあると思います。学校はその中に入っています。生まれた時からすでにパソコン、インターネット環境、スマホがあった世代であり、情報や映像を楽しむことについて多くの選択肢を持つことが可能で、しかもその選択肢が進化を続ける現代に生き、6年間児童と呼ばれ、3年間生徒と呼ばれる子どもたちは学校生活をどのように見ているのでしょうか。期待や信頼はどうでしょうか。それを知るには、やはり時間と目的を共有し相手に話してもらいそれを聞く、その積み重ねが必要だと思います。相手とつながることの面白さ、わかりあうことの心地よさを子どもたちも知っていると思います。「現在相は決定相ではない。」と言われる。成長の過程にある人、その人たちがどのように時を積み重ねていくか、子どもたちが飛躍するために大人には何ができるか。支援と指導、そして見守り、待つことやその他の手立てを考え、そうして主役の舞台を支えて共に時を積み重ねていくことが大人の大切な仕事だと思います。これからも先生方と教育委員会事務局の皆様の方々の尽力のもと、多くの方々の関心と期待が多治見の教育に寄せられ積み重なっていくことを願ってやみません。

令和元年度 夏休み得意セミナー ・ 教師塾セミナー

● 夏休み子ども得意セミナー

「夏休み子ども得意セミナー」を7月23日～8月2日の間に14講座行いました。

今年度は、親子でふれあい、いっしょに体験できる講座を増やしました。「親子で体験！まが玉づくり」「あなたの知らない家庭学習の世界」「書道コンクールにチャレンジしよう」「親子で体験！はじめての科学作品 初級、中・上級」「ポスターをかこう！」「パソコンでオリジナルカレンダーを作ろう！」などです。また、「ハンドベルを響かせて、演奏しよう」は自由に見学できるようにしました。親の講座への参加希望者はのべ208名あり、抽選で実際に講座に参加できたのは103名でした。

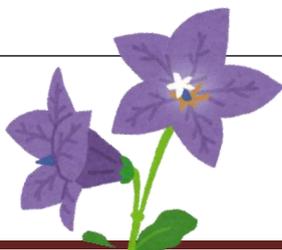
(写真1 親子で科学作品について聞く様子)



(科学作品講座に参加した保護者の感想から)

子どもの作品ですが、親も一緒に楽しみながら調べていく事が大事なと思いました。大人がそんな事…と思うような事が発見になるかもしれないので、子どもの意見や気持ちを大切にしたいです。

(母親)



● 教師塾セミナー

「教師塾セミナー」は7月30日（「教育相談」のみ8月2日）に14講座実施しました。これからの小学校外国語、特別の教科 道徳、プログラミング教育など今日的な教育課題に関わる講座や、喫緊の課題である不登校、教育相談、学習支援、生徒指導などの講座を開催しました。保育園、幼稚園、小学校、中学校から合計308名の参加者がありました。

(写真2 生徒指導の講座から)



参加された先生の感想を紹介します。

今日は当事者の方からどんなことを思っていたか、つらいことを含めてお話を聞くことができ本当に良かったと思います。今から学校で、どんなことができるか時間は限られますが、子どもの将来を考えながら、支援につなげたいと思います。(不登校講座の参加者)

自分も小学校でiPadを使用しています。なかなか満足に生かすことができていません。せっかく様々なアプリがあるので、自分でまずはいろいろやってみて、生かしたいと感じました。…後略…(学習支援講座の参加者)

各講座の終了時に参加者の方にアンケートを行っています。本年度は、すべての講座において、「大変よかった」または「よかった」の肯定的評価が100%でした。これは、講師を引き受けてくださった先生方の見識と綿密な準備のおかげと感謝いたします。

土曜学習「わがまち 多治見 大好き講座」

美濃焼名人になろう 2019

7月と9月は「美濃焼名人になろう2019」と題して、美濃焼ミュージアムと陶磁器意匠研究所にて行いました。

美濃焼ミュージアムでは、美濃を代表する陶芸作家の作品を見たり、美濃焼の器でお茶を飲んだりする体験を通して美濃焼文化のよさを味わいました。



美濃焼の器で抹茶をいただく

また陶磁器意匠研究所では、施設を見学して釉薬や焼成温度についてのお話を伺ったり、ろくろを使った作陶をしたりして、陶磁器づくりについて学びました。



電動ろくろを使った作陶体験



中学生ボランティアによる片付け

見て、聴いて、描いてふれる多治見修道院

10月26日には、昭和初期に建てられ現在も美しい姿で市民に愛されている神言会多治見修道院にて行いました。

教会の方の案内で、大聖堂を見学したり、パイオルガンの演奏を聴いたり、庭園を歩いたりして、いいところをいっぱい見つけました。



大聖堂で神父様の話を伺う

その後、見つけたいいところを絵で表して、修道院の魅力を家族や友達に伝えました。絵を描くときには図工の先生からスケッチのこつを教えていただきました。



絵の先生にアドバイスをもらう



中学生と一緒に描く



子どもが描いた絵

第26回 連合生徒会交流会

8月5日と6日に第26回連合生徒会交流会を行いました。

これは「将来の多治見市を担う中学生が、様々なテーマについて日頃考えていることを、各学校の実践や現状をもとに交流したり、講演を聴いたりすることを通して、今後の生徒会活動の充実を図るとともに、まちづくりへの意識を高める」ことをねらいとするものです。

今回は、36名の生徒が参加し、以下の活動を行いました。

① 緊張をほぐすためのアイスブレイクの活動

別の学校の生徒とグループを組み、自己紹介をしたり、共通点やそれぞれの学校について話し合ったりしました。



～生徒の感想～

○最初は不安で緊張していたけれど、交流をしていく中で、意見や考え方の違いなども分かったし、仲良くなれたりして、よい経験の1つだと感じた。また、学校のことで会話が広がり、他校との共通点を見付けるきっかけとなった。

② 杉浦誠司氏の講演

文字職人の杉浦誠司氏による、夢についての講演を伺いました。

仲間の大切さ、「予祝」の考え方、心のもち方の大切さ等について教えていただきました。また、夢が叶った自分になりきって、15歳の自分へ手紙も書いて、ペアで読み合いました。



○杉浦さんの話を聞いて、自分の将来の夢について「どうせ無理」とか「できない」とかすぐにいうのではなく、「まずやってみよう」「自分なら絶対成功する」という気持ちで向き合っ、今を楽しむことが大切だと気付いた。受験生としての今の時期、杉浦さんにももらった言葉を大切にしたい。

③ 地球村での宿泊

夕食は、炭をおこしたり、食材を焼いたりすることで、ちがう学校の生徒と楽しく交流を深めることができました。



○地球村でのBBQでは、仕事をやりきってみんながおいしく食べているときの充実感がよかったし、グループ内でたくさんの交流ができたのでよかったし、夜の自由時間などでより深い楽しい交流ができたので楽しかったです。

④ 交流会

各学校が取組を発表したり、意見交流をしました。



○他の学校の良い所を知ることができました。自分たちの学校には無い活動、やりたくてもできない所の改善方法を知ることができました。昨年も参加しましたが、より深い内容の話ができたのでよかったと思います。また冬季も機会があれば参加したいと思います。

初任の先生の紹介(小学校)

「チャレンジ！」

精華小学校 小川 将弥



憧れの教員としての生活が始まり、初めは期待と不安が入り交じっていました。その不安を取り除いてくれたのは子どもたちでした。それと同時に、子どもたちの貴重な1年間の担任を私が引き受けると思うと身が引き締まる思いもありました。

この半年間を振り返ると、学習指導や生徒指導において、自分の想いを子どもにどのように伝えていくかにとっても悩みました。特に、私自身が答えを言って伝えるのではなく、子ども自身に考えさせることの難しさがありました。その中で、学年の先生をはじめ、校内の先生方が私にアドバイスをしてくださり、とても勉強になっています。

これからも試行錯誤の日々が続きますが、子どもの為に自分には何が出来るのかを常に考え、チャレンジし続けていくことで、私自身も子どもと共に成長していきます。

「楽しい学校」

共栄小学校 齊藤 真子



他県の先生になっても岐阜の先生になっても、児童の学ぶ意欲や向上心は変わらないと感じました。教師の問いかけや行動に一所懸命に答えてくれる児童たちを前にすると、自分も頑張らなくてはと奮い立たせられます。

時折、自分が小学生だったらと考えてみます。私だったら授業が分かって毎日楽しいと思える学校が一番であり、先生や友達に褒められると嬉しくなります。その想像を大切に日々の授業や学級経営を考え、実行したいと思っています。なかなか思い描くような毎日にはなりません、良いと思った流れや先輩教諭から学んだことを積極的に取り入れて教師としての幅を広げようと頑張っています。

何よりも学校生活を私自身が楽しみたいと思います。先生が楽しそうだと子どもたちも自然に笑顔になっているような気がします。皆と一緒に楽しい毎日を過ごしていきます。

「教師の言葉の力」

小泉小学校 大島 真紀



私は、多治見市で生まれ、多治見市で育ちました。自分が育った、この町で子どもたちの教育に携わることができることを嬉しく思っています。長い間、講師として多治見市の教育に携わってきましたが、改めて、教師の言葉の大切さを学んでいます。子どもたちは、とても素直です。教師の言葉を真剣に受け止め、頑張っ取り組もうとし、たくさんの成長をします。だからこそ、私たち教師が発する言葉の一つ一つがとても大切だと思っています。褒める言葉も叱る言葉も、どのように成長させたいのか、何を伝えたいのか、そして、どのように受け止めるのかを考えて発するよう心がけています。これからも、教師の言葉に責任をもち、温かな人間関係を築いていきます。

「1人1人を大切に」

北栄小学校 半田 いく乃



「先生おはよう」「昨日こんなことがあったよ」と朝から元気いっぱい話しかけてくれる子どもたちと過ごし始めて半年が経ちました。まだまだうまくいかないことばかりですが、たくさんの先生方がいつも声をかけてくださり、教室ではにこにこの笑顔を見せてくれる子どもたちに支えられて、こうして頑張ることができています。今私が大切だと感じていることは、「その子にしかない良さを、学級全体に広めること」です。クラスでは些細なことでもけんかになってしまうことがあります。そんな子どもたちに、みんなそれぞれ違うけれど、一人一人にいいところがたくさんあって、「みんな大切、みんな仲間」なんだということをこの一年を通して伝えていきたいと思っています。そのために、これからも子どもたちとたくさん関わり、すてきな姿を見つけて、自分自身も共に成長していけるように頑張ります。

新採用の先生の紹介(幼稚園)

「成長し合う毎日を」

精華小学校附属愛児幼稚園 若尾 祐希

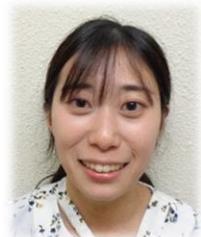


子どもが大好きで一度も揺れることなく憧れ続けてきた仕事に就き、約半年が経ちました。初めてのことに直面する度に先輩の先生方に教わりながら試行錯誤する日々が現在も続いています。

自分の無力さに悔しい気持ちでいっぱいになり、落ち込む時もありますが、様々な経験を通して心身共に確実に大きくなっていく子どもたちの姿に励まされ、私も子どもたちに負けないくらい保育者として成長しなければと感じています。一人一人に愛情を持って向き合い、それぞれの良いところをたくさん見つけて伸ばしてあげられる保育を目指します。出来ないことが多い中、周りの先生方がとても温かく指導や話をして下さることで、いつも笑顔で過ごす事ができています。先生方から学ぶ姿勢を大切に、自分の引き出しを増やしていける一年にしたいと思います。

「子どもたちと共に」

明和幼稚園 山田 真優



幼稚園の先生になって2年が経とうとしていますが、まだまだ声掛けの方法やクラス運営、教材研修など悩むことがたくさんあります。しかし私の悩みを聞いてくれる諸先輩方や、毎日元気いっぱいに「おはよう！」とあいさつをしてくれる子どもたちに支えられながら充実した日々を過ごすことができています。

私が教諭としての仕事を進めるうえで大切にしていることがあります。それは、「子どもの気持ちに常に寄り添うこと」です。丁寧な関わりを通し共感しようと努めてきたことで、一人一人の素敵な姿をたくさん発見することができました。

今後も子どもたちの素敵な姿がもっと増えるよう、活動や環境設定など、先輩の姿を見て学び、積極的に自分の教育に取り入れていければと思います。そして子どもたちと一緒に成長していけるよう頑張ります。

多治見市科学作品展

9月7日・8日に多治見市科学作品展がパロ一文化ホールで開催しました。多治見市内の小・中学校で選抜された作品およそ231点が展示されました。

1200人以上の方に参観していただき、多くの感想をいただきました。

参観者の感想を紹介します。

- みんな楽しそうに研究されていて、良い作品ばかりでした。中学校では出品されていない学校もあり、こうした研究に取り組むことも良い経験になっていいのになぁと思いました。
- どれも「問題意識」「着眼点」がおもしろく、“身近な科学”とうれしく思いました。こうした経験が、成長したときのみなさんの役に立つことを期待します。
- 皆さん、長い時間をかけ、丁寧に研究・観察をしていて、続けることの大切さや、そのことで今後の生活で活かしていける力が育まれていると思いました。



多治見市科学作品展の様子

また、多治見市から科学作品東濃地区審査会に出品した作品のうち小学校9点、中学校3点が中央展に出品されました。

中央展でも小学校で最優秀賞1点、優秀賞1点、中学校で優秀賞3点が多治見市から選ばれました。

中央展で最優秀賞に選ばれた根本小学校2年生児童の作品「テントウムシのひみつ パート2 ～ナナホシテントウの「歩行」パターンを見つけよう！～」は「第56回才能開発コンテスト科学部門」に応募される予定です。